

【自然科学研究科博士後期課程 ディプロマ・ポリシー】

国際的に活躍できる研究者・高度技術者としての能力を身につけた人に博士の学位を授与します。すなわち、専門分野の最先端の学術的知見を修得し、専門分野に関連した分野の知識・技術にも造詣があり、専門分野に関連した課題を自立的に抽出したり解決したりする能力を身につけ、自らが探究して実施した研究成果を纏めた博士論文が学術的意義に富んだ人に学位を授与します。

【自然科学研究科博士後期課程 カリキュラム・ポリシー】

自然科学研究科博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門分野の最先端の学術的知見の獲得や専門分野に関連した課題を自立的に抽出したり解決したりする能力の養成により、創造性豊かな自立した国際的研究者・技術者を養成するため、数理物理科学専攻、地球生命物質科学専攻、学際基礎科学専攻、産業創成工学専攻、応用化学専攻の5専攻を設置し、正指導教員及び副指導教員による履修計画・履修指導により、専門分野に応じた体系的かつ順次性をもった教育を行います。

また、自然科学研究科では大学院教育の充実や改善を図るため、学務委員会を中心として授業計画の充実やFD活動を始めた教育方法の改善に継続的に取り組んでいます。

【論理的な課題解決能力の獲得】

学問的に専門化された分野の最先端の知識・技術を深く学ぶため、初年度から所属する教育研究分野の演習を必修科目として配当するとともに、自己の学問的基盤を上げ、かつ広く人間社会を見渡せる視野と応用能力を獲得するために、自専攻開講科目に加え他専攻(他研究科・他大学大学院を含む)開講科目も修了要件に算入することを可能とし、専攻または講座ごとに決められた履修方法で履修させることにより論理的な課題解決能力の獲得を目指します。

【専門分野に関連した課題を自立的に抽出したり解決したりする能力の養成】

現代の国際社会及び科学・技術が直面する課題を認識して解決するため、指導教員の研究指導の下で、自らが計画策定に携わった科学研究を遂行し、その成果を社会に還元するために国内外の学会等で発表したり、学術論文を執筆したりすることを通して、専門分野に関連した課題を自立的に抽出したり解決したりする能力の養成を目指します。なお、学生の研究計画に対する正・副指導教員の指導は研究指導書として年度ごとに提出することを義務化し、研究科内で相互チェックを可能にしています。

また、自然科学研究科では、様々な学修の要求に応えるべく研究科横断の学修や先取り履修の制度化(研究科横断Flex BMDコース)、インターンシップや学会発表等の実践型学修の単位化にも取り組んでいます。

各授業科目の単位修得の認定は、試験、研究報告、発表状況・レポート、出席状況、受講態度など多様な要素を組み合わせて厳格に評価します。専攻またはコースごとに決められたコースワーク及びリサーチワークの必要単位を修得するとともに、学位審査委員会による評価基準に基づいた学位論文の審査及び最終試験により合格の判定が行われます。

【自然科学研究科博士後期課程 アドミッション・ポリシー】

入学者選抜の基本方針

専門分野に関する先端的な知識・技術を修得するとともに、専門分野以外の基礎的学力も獲得した上で、それらを融合的に駆使することに加えて、豊かな創造性、独創的な課題設定能力、深い洞察力や高いコミュニケーション

ーション能力を発揮することにより、科学・技術を飛躍的に発展させたり、未知の学術領域を切り拓いたりする意欲にあふれた人を、国内外に広く募集します。書類審査及び口頭試問により、専門的基礎学力及び課題設定能力や課題解決能力を、専攻または講座ごと及び入試方式（一般入試・外国人留学生海外特別入試）ごとに定めた基準及び比重に従って評価する入試を行い選抜して受入れます。

求める人材像

自然科学研究科では、岡山大学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築(知の府として、新たなパラダイムを構築)」を背景に以下のような意識と意欲を持った人を求めています。

1. 人と自然の関わりに興味を持ち、地域や国際社会に貢献したいという強い意欲のある人
2. 専攻する学問分野の基礎を修得し、先端研究分野に挑戦する強い目的意識を持っている人
3. 旺盛な学習意欲を持ち、自ら考え、行動することのできる人
4. 研究面でリーダーシップを発揮し、国際的に活躍したいという強い意欲を持った人
5. 専門分野以外の分野にも興味を持ち、幅広い知識と視野を修得しようという意欲を持った人

入学者選抜試験

自然科学研究科博士後期課程では、多様な学生を確保するために下記の入学者選抜試験を実施しています。

(1) 一般入試

書類審査、口頭試問を課しています。書類審査では受験時までに習得した専門性、キャリアプランなどについて、複数の教員が多面的に確認します。口頭試問では、専門的基礎学力及び課題設定能力や課題解決能力等を総合的に評価します。

(2) 外国人留学生海外特別入試

書類審査を課しています。書類審査では受験時までに習得した専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応の状況や経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
	◎	○	◎	○	☆	○
一般入試	◎	書類審査 口頭試問	○	口頭試問	☆	口頭試問
外国人留学生海外特別入試	☆	書類審査	◎	書類審査	○	書類審査

(注)◎は特に重視する要素，○は重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。